

ばあちゃんは目ざまし時計

今井 紳太郎

「ワツハツハツハー」休みの日の朝、ぼくはばあちゃんの大きな笑い声で目をさますことがあります。「うるさいなあ、せっかく気もよくねていたのに」とばあちゃんに言う、「ごめんよ」と言いがらばあちゃんと笑いあうのが休みの朝の日かです。ぼくのばあちゃんは、テレビを見ることが大すきで、いつも朝の早い時間から大すきな番組を見ては大声で笑っています。野きゅうやサツカカーのスポーツを見ることが大すきで、点数が入ったり、おうえんしているチームがかつたりすると、大きな声でよろこんでいます。また、車で出かけることが大すきで、時間がある」とぼくたち兄妹を遊びにつれて行ってくれる元気なばあちゃんです。

ぼくのお父さんとお母さんは、はたらいているので、ぼくは小さいころからずっとばあちゃんに面どうを見てもらっていて、今は多くの妹の面どうも一しよに見てくれます。ある日ぼくは妹とけんかをして大きな声でおこられました。「ばあちゃんなんていなくなればいいのに」とぼくが言い返すと、ばあちゃんはかなしい目でぼくを見つめていました。ぼくはおこられた時、ばあちゃんをきらいになることがあります。でも、ぼくを見つめていたばあちゃんのかなしい目を思い出すとむねがいたくなりまします。

ある日、いつも元気なばあちゃんの笑い声があまり聞こえてこ

なくなりました。お母さんに聞くと、ばあちゃんの目がびよう気になってあまりよく見えなくて、手じゅつすると言われました。いつもはうるさいと思っていたばあちゃんの笑い声だけど、聞こえなくなる何かさみしくなりました。そして早くばあちゃんが目が良くなってほしいと思いました。手じゅつへびよういんへ行く日の朝、ばあちゃんは元気な声で「ハツハツハー、ばあちゃんは大丈夫だよ！」と笑っていつものやさしい目でぼくたち兄妹を見つめてくれました。ぼくも自ぜんに「ばあちゃんいつもありがとう。早く良くなって」と大きな声で言いました。ばあちゃんが家にいない時間は、妹と一しよに遊んでいても何か物足りなくて、家の中がいつもとちがいが暗くさびしいかんじがしました。ばあちゃんがぶじ手じゅつが終わり家に帰ってきました。目も良くなり、大すきなテレビも見られるようになりました。ばあちゃんが帰ってきた次の日の朝、ぼくはばあちゃんの大きな笑い声で目がさめました。前までは、うるさいと思っていたけれど、ひさしぶりに聞いたばあちゃんの笑い声は、何だかあたたかくてとてもうれしくかんじました。

「おこしてくれてありがとう」とぼくが言うと、ばあちゃんは意味が分からないといった顔をしながら、やさしい目でぼくを見つめてくれました。ばあちゃんは、ぼくの目ざまし時計であり、ぼくの家の太ようです。こんなばあちゃんがぼくは大すきです。